

製品名: c-Rel ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09385**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	68kDa

抗原情報

遺伝子名	REL
別名	REL; Proto-oncogene c-Rel
遺伝子 ID	5966.0
SwissProt ID	Q04864
免疫原	抗血清は、ヒト Rel 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 470-519

背景

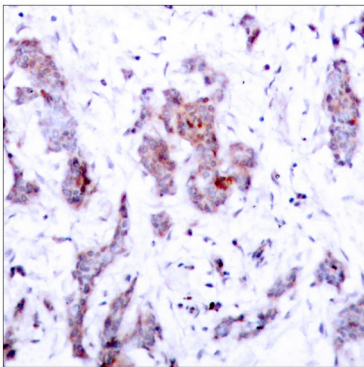
この遺伝子は、Rel 相同ドメイン/免疫グロブリン様フォールド、プレキシン、転写因子 (RHD/IPT) ファミリーに属するタンパク質をコードします。このファミリーのメンバーは、アポトーシス、炎症、免疫応答、および発癌プロセスに関与する遺伝子を制御しま

す。このプロトオンコゲンは、Bリンパ球の生存と増殖に役割を果たします。この遺伝子の変異または増幅は、ホジキンリンパ腫を含むB細胞リンパ腫と関連しています。この遺伝子の一塩基多型は、潰瘍性大腸炎および関節リウマチの感受性と関連しています。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2014年4月]、機能: 分化およびリンパ球新生に関する可能性のあるプロトオンコゲンの。NF-κBは、ほぼすべての細胞型に存在する多面的転写因子であり、炎症、免疫、分化、細胞増殖、腫瘍形成、アポトーシスなど、多くの生物学的プロセスに関与しています。NF-κBは、Rel様ドメイン含有タンパク質RELA/p65、RELB、NFKB1/p105、NFKB1/p50、REL、およびNFKB2/p52によって形成されるホモまたはヘテロ二量体複合体です。二量体は標的遺伝子のDNAのκB部位に結合し、個々の二量体は異なるκB部位に対して明確な親和性と特異性を持って結合することができます。異なる二量体の組み合わせは、それぞれ転写活性化因子または転写抑制因子として機能します。NF-κBは、翻訳後修飾や細胞内区画化などのさまざまなメカニズム、および他の補因子やコリプレッサーとの相互作用によって制御されます。NF-κB複合体は、NF-κB阻害因子(IκB)ファミリーのメンバーと複合体を形成し、不活性状態で細胞質内に保持されます。従来の活性化経路では、IκBは様々な活性化因子に反応してIκBキナーゼ(IKK)によってリン酸化され、その後分解されて活性NF-κB複合体が遊離し、核に移行します。NF-κBヘテロ二量体RELA/p65-c-Relは転写活性化因子です。類似性: 1つのRHD(Rel様)ドメインを含みます。サブユニット: NF-κB p65-c-Rel複合体の構成要素。NF-κB p50-c-Rel複合体の構成要素。NF-κB p52-c-Rel複合体の構成要素。ホモ二量体; NF-κB c-Rel-c-Rel複合体の構成要素(類似性による)。NKIRAS1と相互作用する。NFKBIBと相互作用する(類似性による)。NFKBIEと相互作用する。

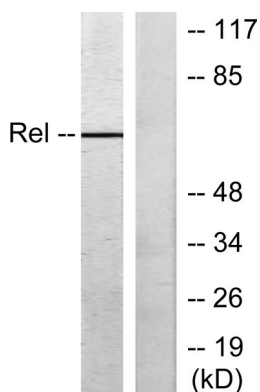
研究分野

シグナル伝達

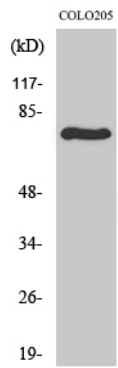
画像データ



Rel抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



MDA-MB-435細胞ライセートのRel抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



c-Rel ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウエスタンブロット分析。